

2013年3月期 決算説明会

東京製綱株式会社

(TOKYO ROPE MFG. CO., LTD.)



2013年5月30日

目次

2013年3月期 決算の概要

2014年3月期の事業見通し

各事業の主要施策について

2013年3月期 決算の概要

2014年3月期の事業見通し

各事業の主要施策について

2013年3月期 決算ポイント

スチールコード事業の環境悪化により大幅減益
事業構造改革費用など、特別損失256億円計上

売上高 652億89百万円 〔前期比△14.5%〕

前期比△110億円(うち、スチールコード事業△104億円)

営業利益 △34億44百万円 〔前期比 - 〕

前期比△41億円(うち、スチールコード事業△39億円)

当期純利益 △288億27百万円 〔前期比 - 〕

事業構造改革費用241億円計上などによる

2013年3月期 決算ハイライト

(金額:百万円)

	12年3月期		13年3月期		前年同期比	
	金額	(売上高比)	金額	(売上高比)	金額	(増減比)
売上高	76,370	-	65,289	-	△ 11,081	(△14.5%)
営業利益	751	(1.0%)	△ 3,444	-	△ 4,195	-
経常利益	383	(0.5%)	△ 3,529	-	△ 3,912	-
当期純利益	△ 3,374	-	△ 28,827	-	△ 25,453	-

セグメント別の状況（売上高）

スチールコード：太陽光関連製品（ソーワイヤ、ワイヤソー）は大幅減収、
タイヤコードは輸出及び海外で減収

鋼索鋼線：国内ロープ・ワイヤ販売減少、繊維は震災需要一巡

開発製品：道路分野、橋梁分野、共に増収

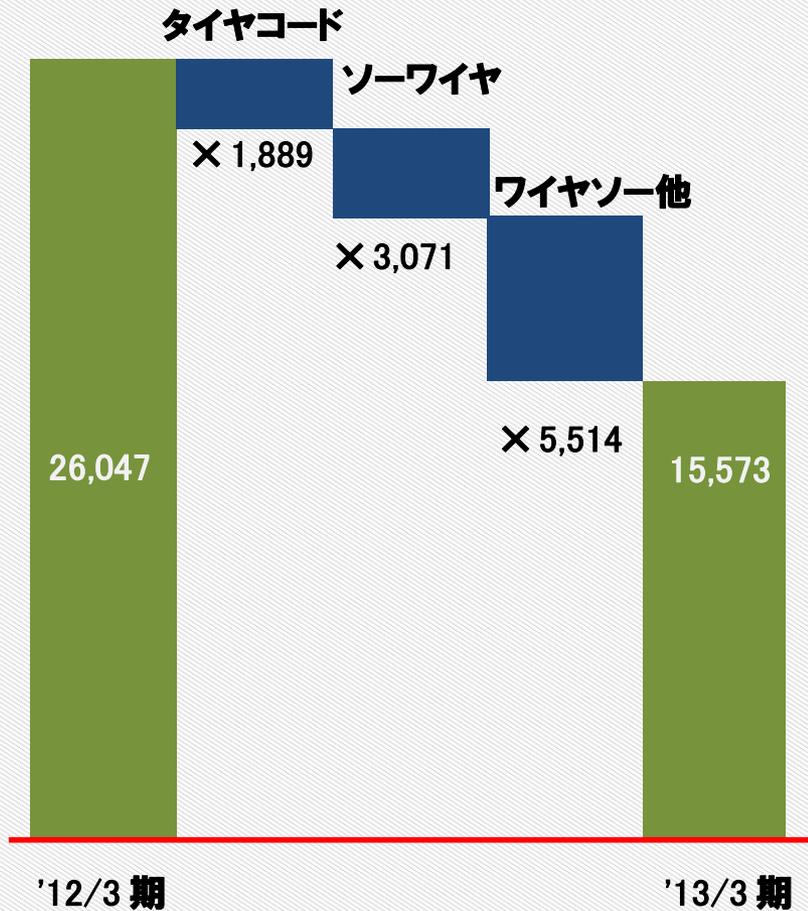
（金額：百万円）

	12年3月期		13年3月期		前年同期比	
	金額	（構成比）	金額	（構成比）	金額	（増減比）
鋼索鋼線	27,495	(36.0%)	26,131	(40.0%)	△ 1,364	(△5.0%)
スチールコード	26,047	(34.1%)	15,573	(23.9%)	△ 10,474	(△40.2%)
開発製品	12,675	(16.6%)	13,522	(20.7%)	+847	(+6.7%)
不動産	1,171	(1.5%)	1,185	(1.8%)	+14	(+1.2%)
その他	8,980	(11.8%)	8,877	(13.6%)	△ 103	(△1.1%)
合計	76,370	(100.0%)	65,289	(100.0%)	△ 11,081	(△14.5%)

増減要因分析(売上高)

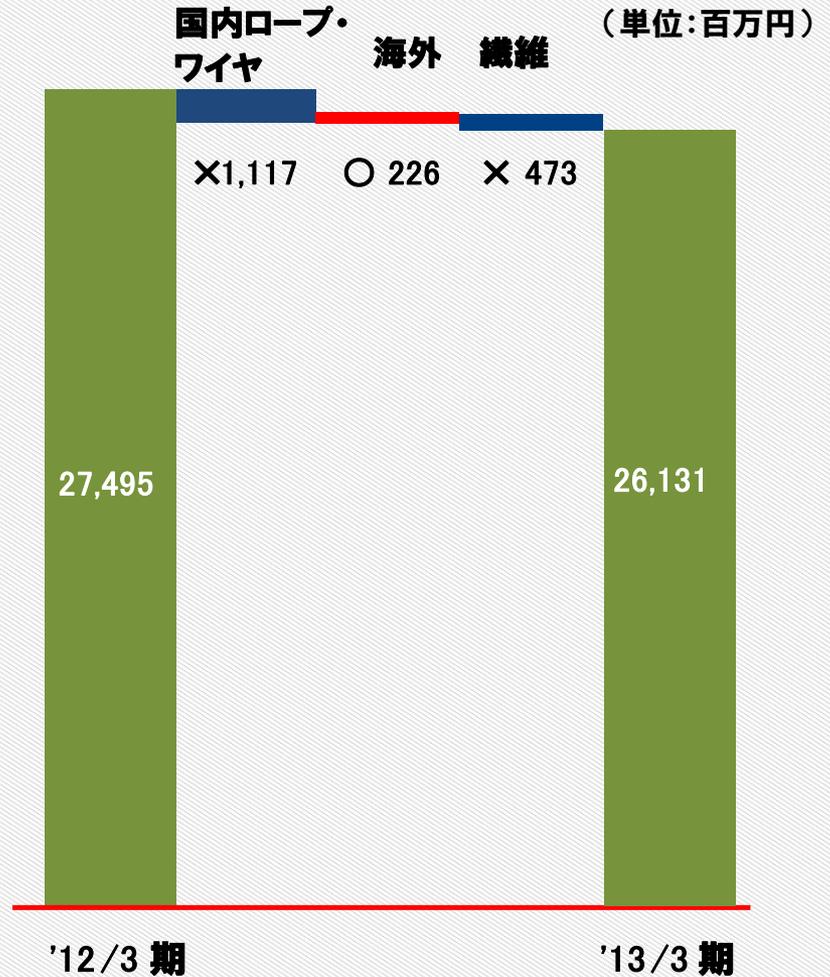
スチールコード

(単位:百万円)



鋼索 鋼線

(単位:百万円)



セグメント別の状況（営業利益）

スチールコード：ソーワイヤ価格は大幅下落、事業環境悪化が継続。タイヤコードも市況悪化

開発製品：橋梁分野の増益が寄与し、黒字化

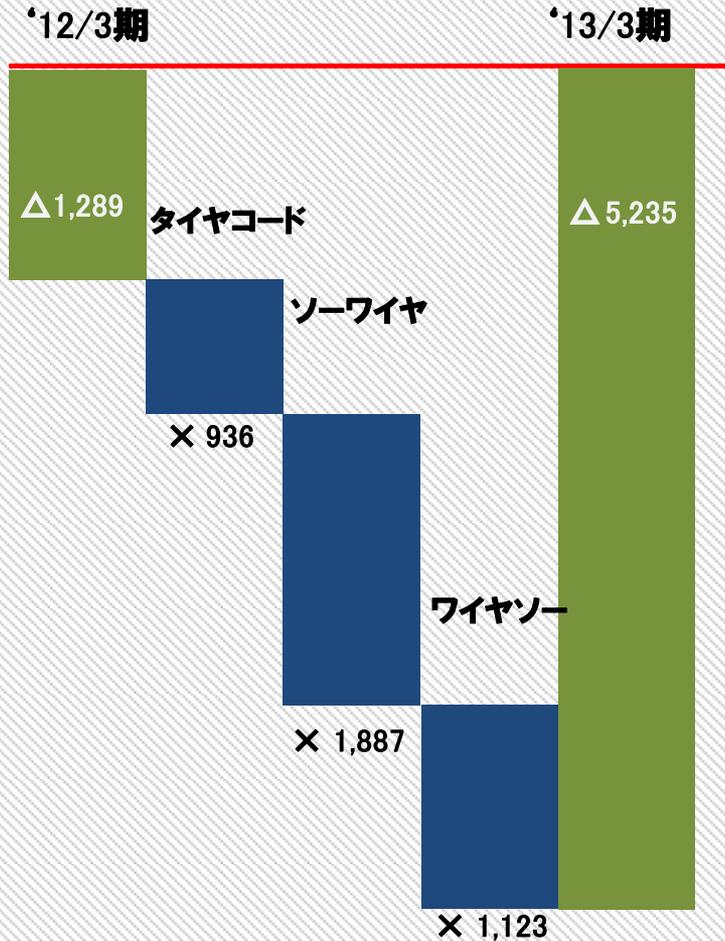
（金額：百万円）

	12年3月期	13年3月期	前年同期比	
			金額	（増減比）
鋼索鋼線	1,136	1,051	△ 85	（△7.5%）
スチールコード	△ 1,289	△ 5,235	△ 3,946	-
開発製品	△ 65	153	+218	-
不動産	503	351	△ 152	（△30.2%）
その他	466	234	△ 232	（△49.8%）
合計	751	△ 3,444	△ 4,195	-

増減要因分析(営業利益)

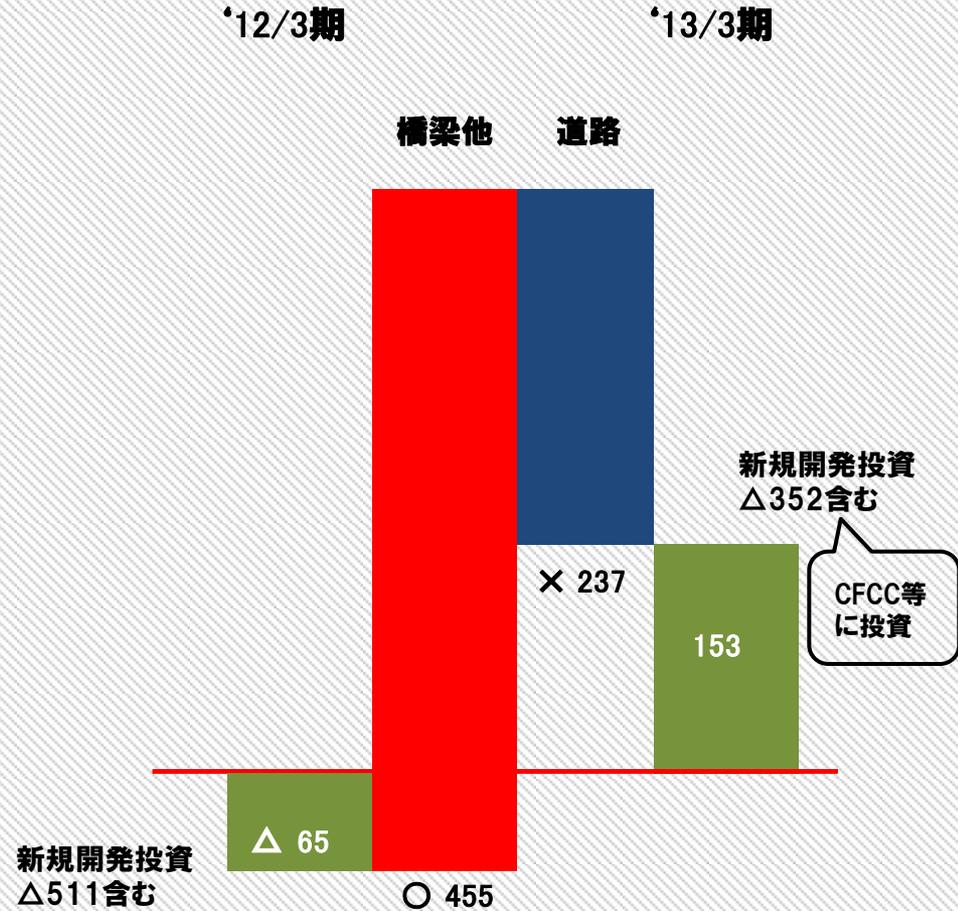
スチールコード

(単位:百万円)



開発製品

(単位:百万円)



特別損益(内訳・概要一覧)

工場の減損、マレーシア工場休止、ワイヤソー関連の在庫引当等、事業構造改革費用241億円

項目	内容	金額
特別退職金	希望退職者に対する特別退職金	△ 857
減損	収益性が低下している国内外工場の固定資産を減損	△ 15,232
操業停止関連	固定資産・棚卸資産の評価損他	△ 4,112
棚卸資産処分	売上の見込みが立たない在庫、不要な貯蔵品の評価損	△ 3,726
その他	関係会社のれん償却他	△ 249
構造改革費用合計		△ 24,176

キャッシュ・フロー

営業活動：売上債権・棚卸資産の減少

投資活動：ベトナム工場の設備投資他

財務活動：借入金が増加が中心

(単位：百万円)

	12年3月期	13年3月期
現金及び現金同等物の期首残高	3,480	1,822
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,332	2,657
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,521	△ 2,094
フリー・キャッシュ・フロー	△ 9,853	563
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,654	2,977
現金及び現金同等物の期末残高	1,822	5,463

2013年3月期 決算の概要

2014年3月期の事業見通し

各事業の主要施策について

2014年3月期 見通し

**事業構造改革による収益改善額は36億円
 鋼索鋼線・開発製品の増収効果も見込み、黒字転換**

売上高：680億円（前期比 +4.2%）

営業利益：20億円（前期比54億円増益）

（金額：百万円）

	13年3月期		14年3月期		前年同期比	
	金額	（売上高比）	金額	（売上高比）	金額	（増減比）
売上高	65,289	-	68,000	-	+2,711	(+4.2%)
営業利益	△ 3,444	-	2,000	-	+5,444	-
経常利益	△ 3,529	-	1,300	-	+4,829	-
当期純利益	△ 28,827	-	1,000	-	+29,827	-

2014年3月期 見通し(主要製品)

鋼索鋼線関連事業

- 【建設機械、土建向けロープ】 販売量増加を見込む
- 【エレベータ用ロープ】 堅調に推移

スチールコード関連事業

- 【タイヤコード国内】 販売量増加を見込むも、価格面は弱含み
- 【タイヤコード海外】 中国市場拡大、日本への輸出もあり増収見込
- 【ソーワイヤ 国内】 汎用品から特殊品へのシフト影響もあり微減
- 【ソーワイヤ 海外】 市況の大幅な悪化により一時稼働休止中
- 【ワイヤソー】 今期回復は見込まず

開発製品関連事業

- 【国内】 橋梁、道路共に事業環境良好
- 【海外】 CIS諸国向け、増収増益

2014年3月期 見通し (セグメント別)

売上高

**国内の公共事業予算増と復興・防災需要
海外成長分野需要(ロシア・ベトナム)を見込む**

鋼索鋼線 : 堅調なエレベータ需要とベトナム増産により増収

開発製品 : 海外大型橋梁案件(受注済)が寄与し大幅増収

(金額:百万円)

	13年3月期		14年3月期		前年同期比	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)	金額	(増減比)
鋼索鋼線	26,131	(40.0%)	26,500	(39.0%)	+369	(+1.4%)
スチールコード	15,573	(23.9%)	14,800	(21.7%)	△773	(△5.0%)
開発製品	13,522	(20.7%)	17,000	(25.0%)	+3,478	(+25.7%)
不動産	1,185	(1.8%)	1,200	(1.8%)	+15	(+1.3%)
その他	8,877	(13.6%)	8,500	(12.5%)	△377	(△4.2%)
合計	65,289	(100.0%)	68,000	(100.0%)	+2,711	(+4.2%)

2014年3月期 見通し(セグメント別)

営業利益

構造改革施策により、スチールコード事業は赤字幅縮小へ

鋼索鋼線:コスト改善・ベトナム増産により増益

開発製品:ロシア始め海外・国内受注増により、大幅増益

(金額:百万円)

	13年3月期	14年3月期	前年同期比	
			金額	(増減比)
鋼 索 鋼 線	1,051	1,300	+249	(+23.7%)
スチールコード	△ 5,235	△ 900	+4,335	-
開 発 製 品	153	1,000	+847	(+553.6%)
不 動 産	351	300	△ 51	(△14.5%)
そ の 他	234	300	+66	(+28.2%)
合 計	△ 3,444	2,000	+5,444	-

2014年3月期 事業構造改革効果(収益改善金額)

2013/3月期に実施した施策の効果発現により、
【固定費圧縮36億円】

項目	内容	効果額 (対前期比)
固定資産の減損影響	・ 減損による減価償却費減少15億円	15億円
労務費・役員報酬削減	・ 報酬・給与減額等2.5億円 ・ 退職給付費用の償却終了等2.5億円 ・ 希望退職実施(H24/9末)による 労務費減6億円(半期⇒通期) ・ 人員削減による労務費圧縮1億円	12億円
マレーシア事業場休止	・ 操業停止中	7億円
経費削減	・ 研究費圧縮(補助金の活用) ・ 賃借料減少(倉庫集約)	2億円
合計		36億円

設備投資額・減価償却費・研究開発費

項目	2013年3月期	2014年3月期
設備投資額	28億円	37億円
減価償却費	35億円	16億円
研究開発費	11億円	10億円

◎2013/3期→2014/3期、ベトナム工場生産設備
 増強への投資増加

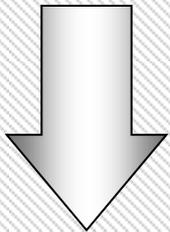
2013年3月期 決算の概要

2014年3月期の事業見通し

各事業の主要施策について

2014年3月期黒字化(1)

2013年3月期にスチールコード事業における
構造改革費用を計上



- ・固定資産減損による償却負担減
- ・人件費等削減による固定費カット

利益を生み出す為の土台(固定費圧縮▲36
億円)を構築

2014年3月期黒字化(2)

- (1) 固定費圧縮▲36億円
- (2) 一方事業収益は、鋼索鋼線・開発製品の成長分野を中心に増益(+18億円)の見通し

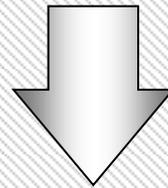
2014年3月期に黒字化を実現

スチールコード事業の抜本施策を加速

事業構造の抜本の見直しとコーポレート・ミッション

基本施策は不変

事業環境は大きく変化した



インフラ整備とエコ・環境分野で更なる成長を志向
トータル・ケーブル・テクノロジー企業の追求

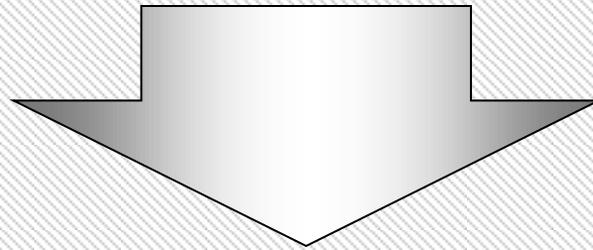
※長期的且つ継続的な成長を目指す

(1) スチールコード事業

(1)スチールコード事業

事業建て直しへ最大限の努力を継続

2014年/3月期は赤字幅縮小も、厳しい事業環境が継続する様相ではあるが、グローバルサプライヤーとしての供給責任を果たす



- ①外部調達コスト削減、生産性向上の推進
- ②付加価値の高い新製品の開発、投入
- ③外部資本の導入・アライアンス締結を検討

(1) スチールコード事業

新製品の開発投入

市場投入した極細・高強度コアワイヤ(ダイヤモンドワイヤ用)が好評。

他の新製品に関しても、積極的に開発推進

- ◎新ダイヤモンドワイヤ(多結晶用)
- ◎高級エコタイヤ用タイヤコード
- ◎超高強度タイヤコード

(2) 鋼索鋼線事業

(2) 鋼索鋼線事業

主要施策

① ベトナム工場生産能力増強を推進

② 営業体制・技術部門の再編

③ 調達コスト削減、生産性向上
一段の推進

(2) 鋼索鋼線事業

エレベータ用ワイヤロープ(EVR)

ユーザの特徴

安全最優先
(品質重視)

海外需要
拡大基調

次世代エレ
ベータ用ロー
プのニーズ

当社の強み

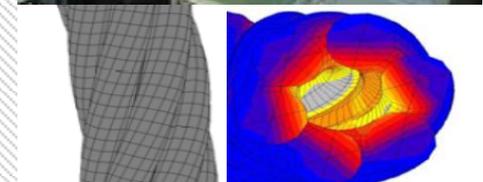
製造技術
(品質安定)

海外
生産拠点

開発力
(ユーザとの
開発実績)



豊富なEVR用試験機

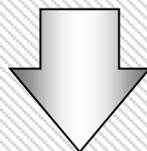


研究開発部門の充実

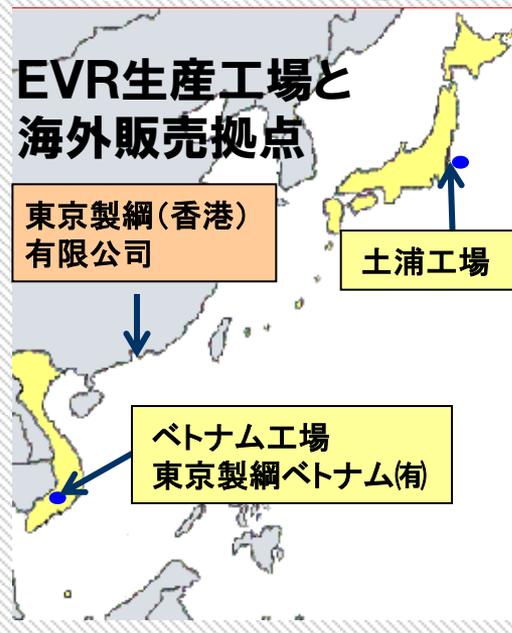
(2) 鋼索鋼線事業

EVRのグローバル事業展開、推進中

ベトナム工場の生産能力増強を推進中



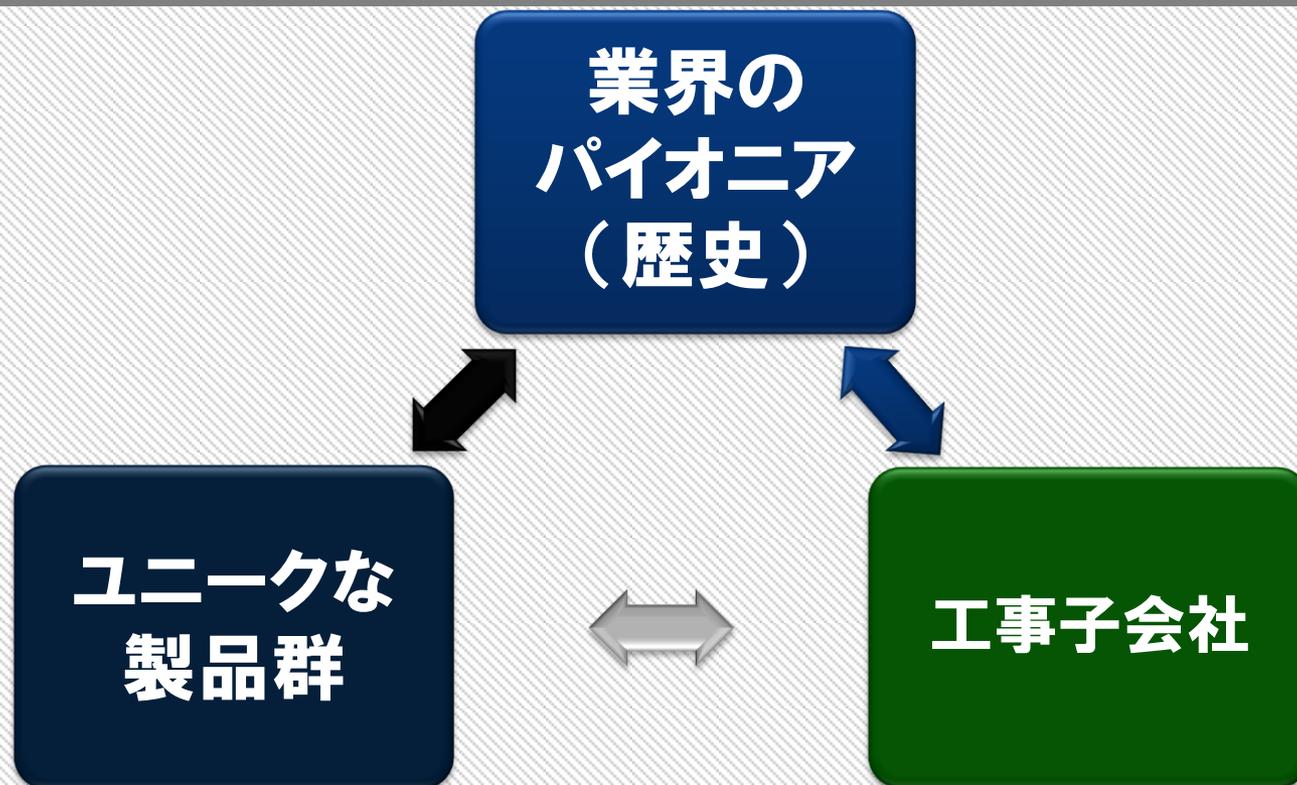
◎一貫生産実現により、コスト競争力強化



(3) 開発製品事業

(3) 開発製品事業

落石防護施設・道路安全施設 当社の強み



発注者(官庁)、設計者(コンサルタント)から
高い評価

(3) 開発製品事業

主要施策

① 新製品群の拡販

② 海外新規案件の獲得

③ インフラ整備需要の確実な捕捉

(3) 開発製品事業

① 新製品群の拡販

全分野(落石対策、雪害対策、道路安全施設)において、実物試験によりユニークな新製品を開発

【一例紹介】

プラクトフェンス、ビストフェンス

(従来の防護機能＋経済性・施工性・維持管理し易さをプラス)

＜実物大衝突実験＞



施工例(静岡県浜松市)



(3) 開発製品事業

② 海外新規案件の獲得(ロシア、CIS諸国)

★今期から受注大幅増加

◎アジア冬季大会、ソチオリンピック会場造成に貢献

◎設計織込み、順調に進捗中



【施工例】ソチオリンピック会場連絡道路
(マイティーネット工)



【施行例】カザフスタン・メデオ
(マイティーネット工)

(3) 開発製品事業 インフラ整備需要の確実な捕捉

安全・防災・インフラメンテナンスでの貢献

政権交代による公共投資環境活発化



インフラ老朽化更新の需要増



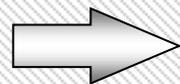
当社製品の貢献機会の高まり

(4)炭素繊維複合材ケーブル (CFCC)

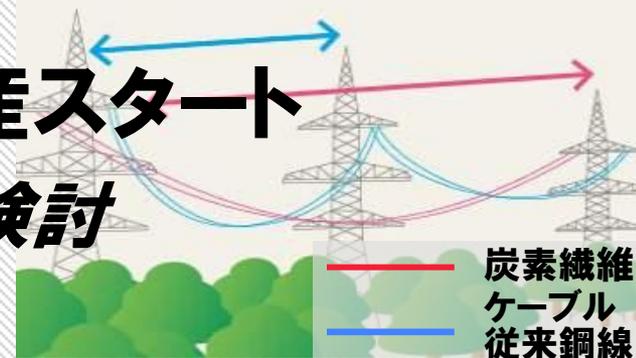
(4)炭素繊維複合材ケーブル(CFCC)

蒲郡CFCC工場、本格稼働

1. 中国送電線事業で、受注生産スタート

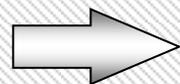


◎今後、現地生産化を検討



2. 北米橋梁用途では各州へ納入実績拡大中

3. 海底油田開発用途推進



◎市場調査のため、ブラジル現地法人
開設、駐在員派遣(2013. 6月~)



《《《 将来の成長エンジンへ 》》》》

配当方針

構造改革の途上により、配当見送り予定

当期、多額の損失を計上したこと、また、構造改革の途上にあることから、収益力アップによる財務体質の回復が最優先
 業績回復に努め、早期の復配を目指してまいります。

年 度	12/3期	13/3期	14/3期
配当(年度当り)	2円50銭	無配	無配
配当性向(連結)	—	—	—

ご注意

- 本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません
- 本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証又は約束するものではありませんのでご了承ください

東京製綱株式会社

2013年 5月